

学校評価の結果に関する考察

1 成果と課題について

児童

■ 成果

- ・「3学校での生活は楽しい」「4学校や学級で友達と仲よくしている」と答えた割合は高い。これからも楽しく仲のよい学校づくりに努める。
- ・「6命の大切さや仲よくすることの大切さについて学習している」「23地震・津波・火事、不審者に出会ったときなどに、どうすればよいか教えてくれる」と答えた割合は高い。これからも、児童にとって安全・安心な学校づくりに努める。
- ・「13授業でタブレット端末を使う授業はわかりやすい」「19先生は、授業を工夫してわかりやすく教えてくれている」で「そう思う」とこたえた割合が、昨年度より4～8%高い。「タブレットの使い方を学習する」から「タブレットを使って学習する」段階に入っている。これからも、子どもたちにとってわかる授業改善に努める。
- ・「22先生はいじめや仲間はずれのないようしっかり教えてくれる」と答えた割合は高い。学校生活アンケートを毎月実施しているが、いじめや仲間はずしにつながる回答が見られた場合は、児童の話をよく聞き、早期解決に努めている。
- ・「28見学や体験活動からわかったことは役に立つ」と答えた割合は高い。これからも各学年で体験学習を積極的に取り入れていく。

■ 課題

- ・「1元気よくあいさつをしている」では、そうでもない児童がいる。子どもらしい大きな声もよいが、態度や表情であいさつの気持ちが示せることも大切である。自他共に気持ちのよいあいさつができるよう指導していく。
- ・「3学校での生活は楽しい」「4友達と仲良くしている」「5分かってくれる友達がいる」で、どちらかといえばそうは思わないと回答があったことは、見逃せない。児童一人一人と向き合い、個を大切にしたい対応が必要。
- ・「10自分の考えや思ったことなどを発表している」「11むずかしい問題でも、わかるまでねばり強く考えている」は、比較的 low 評価。子どもたちが積極的に発表し、ねばり強く取り組めるよう、授業改善の課題として受け止めたい。
- ・「16進んで読書をしている」「17家庭で勉強を○分以上している」「18学習用具をわすれず、きちんと持ってきている」は、昨年度よりできている割合がやや低い。学習チェックなどの全体的取組や学級担任と家庭との連携、子どもの関心を高める指導など工夫していきたい。忘れ物については、家庭の協力をお願いしたい。
- ・「20先生は、がんばったことを認めてくれ、ほめてくれる」「21先生は、困ったことや悩んでいることに相談にのってくれる」では、児童全員に先生が目が行き届いていないことがうかがえる。児童一人一人の様子に気を配り、頑張りを一番に認め、個々の思いをしっかりと受け止められる教職員集団にしていく。
- ・「27給食は残さず食べている」では、好き嫌いだけでなく、適量を食べられない児童がいる。学級で盛る量を減らすなどで対応している。常に学級の残食が多いような場合は、給食センターにも協力を得るようにしている。

保護者

■成果

- ・「2お子さんは、交通ルールや社会生活のきまりを守っている」への評価は高い。学校でも、家庭とともに安全指導を徹底していく。
- ・学校の「19けがや体調が悪くなったときの対応」「20防災・防犯対策」「21安全管理」に対する評価は高い。学校では、マニュアルや訓練方法を常に見直し、実態に即したものと更新している。これからも家庭へのきめ細かな連絡、防災・防犯対策、施設管理など全教職員で児童が安全・安心に生活できるよう努める。
- ・「22学級・学校は、子どもたちの学習環境を整えている」の評価が高い。町の支援により、ハード面での学習環境はある程度整っている。今年度は、全教室照明がLEDとなった。これからも、子どもたちが健康に過ごし、学習に集中できるよう環境整備に努める。夏のPTA奉仕活動や老人会の皆様による除草作業、秋の地域ボランティアの皆さんによる庭木の剪定や伐採などいろいろとお世話になりました。
- ・「27HP、学校新聞、学級新聞、学級・学校だより等で学校の様子を伝えている」は、評価が高い。HPは、子どもたちの活動の様子や各種たよりを随時更新しているので、ぜひご覧ください。

■課題

- ・「8お子さんは、自分の考えや意見を伝える力が身につけてきている。」に関して、課題と捉えている回答は多い。今年度学校では、「言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・協働的に学ぶ子供の育成」を研修テーマに取り組んでいる。年度末に成果を確かめたい。
- ・「10忘れ物をしない学習準備」の達成率を上げるために、家庭の協力をいただきたい。学校も、余裕をもった準備連絡を配慮する。
- ・「11家庭学習」の時間については、毎日の宿題に加えて自主学習を奨励している。家庭学習が充実するよう、タブレットの活用も工夫したい。
- ・「12家庭読書」「13家庭での会話」「14手伝い」「15ゲームやインターネット使用の約束」の評価が低い。読書のすすめとして、学校では朝の活動で読書タイムを設けたり、朝会で学年毎におすすめの本の紹介をしたりしている。また、授業で習っている作品に合わせた図書（同じ作者やシリーズ）をそろえたり新しい図書を購入したりもしている。これからも、本の魅力を伝え、家庭読書を推奨していく。13～15に関して、11月の鹿背山教室で「子どもに自信をつけるほめ方」について話し合った。お子さんとの連携を深めるために、いつもの言葉にひとつ添えてコミュニケーションを図っててください。参加できなかった方のために、その内容は12月の人権だよりに掲載してます。また、10月に実施した「メディアコントロールチャレンジ」も参考にしてください。
- ・「18差別やいじめのない仲間づくりに取り組んでいる」については、クラスだけでなく学校全体の問題ととらえている。いじめの未然防止、早期発見に努め、差別やいじめのない仲間づくりに取り組む。毎月の学校生活アンケートを継続実施し、いじめ防止子ども委員会による子ども主体の啓発活動を行うなど、具体的対策も講じていく。

2 来年度に向けての学校改善について

○互いのよさを認め合える仲間づくり

- ・本校では、朝の清掃活動や各委員会によるミニ集会、運動会などの行事のときなどには、鹿背山班（異年齢集団班）での集団活動が定着しており、上学年が下学年のお世話がよくできる。「6年生になると学校や班のリーダーになる」、「地域では登校班で一番年長の者が班長となる」、そのような意

識は高く、それがよい仲間づくりにつながり、全体的に思いやりのある行動がとれる児童が多い。しかし、そのような環境であっても、アンケート結果のように、必ずしも全員が「学校が楽しい」「友だちは自分のことをわかってくれる」と思っているわけではない。子どもたちが作る集団、さらにその中にある小集団、そして個人にもしっかりと目を向け、互いの人権を尊重し、互いのよさを認め合える仲間づくりを全力ですすめ、子どもたちが安心して通える学校づくりを第一に教育活動を推進する。

○学力及び学習意欲向上に向けて

・学校では「学力向上実行プラン」を作成し、それに従って学習指導を行っている。2学期には中間期の見直しを全教職員で行い、指導方法の改善を行った。（学校HP公開中）そのプランでは、児童の実態より具体的目標を設定し、それを達成するための具体的方策（教員の取組）を示している。2月に達成状況を評価し、次年度に向けての改善事項をまとめ、新たなプランにつなげていくサイクルとなっている。学校HPを見ていただきたい。

・本校では、全担任が研究授業や公開授業を行い、授業後には、研究会をもち、授業改善について話し合っている。「できた」より、「わかった」と子どもたちが実感する授業をすることこそ、学力向上及び学習意欲向上につながる。学習道具としてのタブレットの活用や対話を通しての主体的な学びなど指導目標を据え、来年度もきめ細かな指導に取り組む。

○読書活動充実のために

・各学級文庫には、発達段階に応じた本が並び、利用率は高い。一方、西の端にある図書室の利用率は低い。今年度、図書室西側の本棚を新しくし、環境整備に着手した。子どもたちが訪れたいくなるような図書室の環境づくりを行うとともに、子どもが読みたい本を多く購入し、古い本との入れ替えをしたい。また、町内他校では、ボランティアによる読み聞かせ会が行われている。本校においても、読み聞かせボランティアを募り、読書活動の充実を図りたいと考えている。

○保護者の皆様からのご意見について

・夏には「登下校中の熱中症対策をさせてほしい」との保護者からの要望により、8月に「熱中症対策アンケート」をとり、帽子的形状や首もとの冷却など、子どもの安全を配慮した上での対策を講じた。また、10月には、女子児童のズボンの着用（昨年度のご意見）やハイネックシャツの着用など時代に沿った服装を提案させていただいた。来年度も保護者の皆様からのご意見は、前向きに検討させていただく予定である。

・今回の学校評価アンケートは、メール（Web）を使って答えていただいた。保護者より「お便りはメールで配信してほしい」というご意見がありますので、メールで対応できるものは、そうしていきたい。

今回のWebによる学校評価アンケートの回答率は72%。さらにご協力をお願いしたい。

・運動会や学習発表会などの休日の行事は、弁当の心配がいらぬよう午前中開催にした。授業時数の確保しつつ、保護者の負担軽減の配慮はしたい。また、休日の授業日には、学校が地域の商店から軽食等を手配してくれるとありがたいというご意見もいただいている。PTA行事の休日開催（代休あり）と平日開催（代休なし）については、PTA役員会で協議したい。

・学校では、児童に関する様々な問題がある。必要に応じて、教育委員会や警察、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、その他関係機関と常に連携を図っている。教職員の勤務については、県下的に働き方改革が行われ、超過勤務などの負担軽減に向けて取り組んでいる。

・金管バンド部は4年生以上で構成し、運動会などの学校行事や管楽発表会でその練習の成果を披露している。また「みんなの運動会」と「ビッグひな祭りオープニングセレモニー」には、生比奈小と交代で出演してほしいとの依頼がある。児童数減少に伴い、部員の確保や金管バンド部の活動方法は学校の検討課題である。児童の参加に積極的協力をいただきたい。